



# 早稻田大学 立川稻門会会報

2012年11月10日  
第17号  
発行 立川稻門会  
事務局 立川市富士見町  
47-16  
志村 順子  
電話 042-522-4763  
FAX 042-522-0612

## 立川稻門会第39回総会にあたり この一年

志村 順子



本年の総会講演会講師は

田 中 愛 治 教 授

早 稲 田 大 学 理 事  
早稲田大学政治経済学術院教授



田中愛治教授、プロフィール  
東京都生まれ。75年早稲田大学政治経済学部卒業。85年オハイオ州立大学で（政治学）博士号取得。

教務部長、早稲田ボータルオフィス長などを歴任。グローバルCEO「制度構築の政治学」拠点リーダー。  
講演内容のまとめと所感を二面に記載しました。

今年念願の女子会を実施し登録女性校友にご案内をさしあげました。女子会のみの参加も大いに歓迎なのです。100名近い女性校友のうち半数以上が平成卒の方々でした。こんなに若手が多いのかと調べてみると登録校友の比率も同じことがわかりました。

このことを念頭において若手会をもつてもらい役員の意見をききましたら、若手の集まりもいいが、少し先輩会員が入り異業種交流もあつたほうがいいとのこと。これはやはり地域稻門会の強みかもしれません。今後平成卒役員の力を借りて若手組織の充実に取り組んでいくことも、稻門会の大きな柱になると思っています。

同時に高齢化社会のなか、

(S 40・文)

昨年の総会・地域公開講演会からはじまり、新春落語の新年会、そして紙皿が飛ぶような嵐の中の観桜会、蝉しぐれの中の記念公園での夕涼み会と、大きな行事を工夫してやつてきました。この1年の間には健康麻雀や談話サロンの同好会も新たに発足し、会員の繋がりや、知恵の共有がますますいい関係になってきました。会員の方々の強いご協力を感じた年でした。心から感謝申し上げます。

今年念願の女子会を実施し登録女性校友にご案内をさしあげました。女子会のみの参加も大いに歓迎なのです。100名近い女性校友のうち半数以上が平成卒の方々でした。こんなに若手が多いのかと調べてみると登録校友の比率も同じことがわかりました。

このことを念頭において若手会をもつてもらい役員の意見をききましたら、若手の集まりもいいが、少し先輩会員が入り異業種交流もあつたほうがいいとのことです。これはやはり地域稻門会の強みかもしれません。今後平成卒役員の力を借りて若手組織の充実に取り組んでいくことも、稻門会の大きな柱になると思っています。



総会後の懇親会場

年に一度母校の地を訪ねることも、やはりそこに若き日の自分を見つけて心躍ることです。今年の稻門祭は創立記念日とも重なり、暑いほどの秋の陽ざしの中、まだ重く切なく胸を占める震災関連の関係者のお話を聞くことができました。復興支援酒「がんばろう日本」ぐらいしか応援できませんが、日本人の立ち向かう姿勢と底力を改めて感じながらも、もっと早い対応がなぜできないのかともどかしい思いです。

内外ともに不安が払拭できないこの頃、社会の、アジアや世界の情勢に無関心ではいられなくなりました。今年の総会講演会には政治経済学術院の田中愛治教授の日本の政治についてのお話しをお願いいたしました。流動する政治や投票行動について分かりやすい解説で人気の先生が、どう今を分析されたのか、示唆の多い内容もご覧ください。

## 田中教授の講演を聴いて

和田 宏

この五〇年ばかりの政党の支持率の変化などを、先生はスクリーンにさまざまなグラフを映しながら説明されたので、とても理解しやすい講演になった。

まず、いま日本の政治が不安定である要因として、長い間、有権者の半数が支持政党を持たないできた現実があるという。政治家は党利党略に明け暮れ、たがいに足



の引っ張り合いばかりしている。党としてのチームワークもなく、自分たちで代表を選んでおきながらすぐ引きずりおろしたりする。

国のためにわが身の選挙のことしか考えず、島合しては離散をくり返しているようだ。有権者と政治家の意識の距離は開く一方だと、先生は指摘する。

しかし、と先生はいう。無党派だからといって政治に注目しないわけではなくて、その七〇パーセントが関心を持っているという。

それはそうであろう、デフレ傾向に歯止めがかからず、失業率も改善されない。円高が是正されないまま株価は低迷している。政治は生活に直結しているのだから。この無党派層を掴まえたとき、その党が大躍進した例として、先生は二〇〇五年の小泉自民党の大

勝と二〇〇九年の民主党の政権奪取を挙げる。

長期低落傾向にあった自民党的な小泉純一郎はどうしてあれだけの人気を集められたのか。たしかに人気を切れてよくて、テレビ映りがいい。カッコいいパフォーマンスをしてみせる。しかし見てくれではなく、注目しなければならない点はほかにあると先生は話す。

まず任期の五年間、経済や外交の政策がぶれなかつた。これだけの期間ぶれなかつたのは佐藤栄作以来、中曾根康弘しかいないという。経済は三年くらい同じ政策を続けて、初めて効果が出るのそうだ。

そして経済や外交では保守だったが、国内政治や社会問題、女性を何人も大臣にしたりと、他の面ではリベラルであった。本来自民党は公共事業をばら撒いたりして、地方で強かつたのだが、小泉は自由競争のほうを選んだ。が、それによって地方の支持

層を失う前に、都会の無党派層も巻き込んで選挙で圧勝した。本来この両方の支持は成立しない、矛盾をはらんだものであるが、一時的にこのはなれ技が成功した、もうこんなことは起きないだろうと先生は語る。

この小泉の成功の本質がどうも理解されていなかつたのではないかというのが先生の見方だ。人気があればいいんじゃないかと思つてしまつた。あのあと自民党から首相になつた三人もそうだし、次に政権を取つた民主党など、都会の無党派層を掴まえたときしか勝てないことがよくわかつていただ。

この無党派層の票を集めにはタレンット候補を立てるのがいいといふが、先生の意見は違う。無党派層といつても政治に関心ある人のほうが多いわけだから、この人たちは政治の素人には投票しない。あとの消極的な無党派は選挙に行かないから票にならない。じやあ

国政選挙が近いといわれるこのころになって、新党がいくつかできて、それだけで私などは投票率が上がるのではないかと短絡的に思つてしまふが、先生によればここまで有権者と政治家の意識が乖離すると、それも疑問だといふ。この国はこれからどういう方向に進むのか、深く考えさせられた一夜になつた。(S 40・文)

## 地域社会への貢献

広瀬 俊夫

立川稲門会の会則・目的には、会員相互の親睦、地域社会に貢献、早稲田大学への協力と決められている。大学への協力は、寄付金を始め、本部役員の皆様が熱心に取り組んでおられる。会員の親睦も同好会が増え充実してきました。地域社会への関わりが、まだ不十分

分です。少しでも社会に役立つことを継続することで、長い人生がより充実するようです。次に役員を中心に、皆様方からの情報をまとめました。

たちかわ多文化共生センター( TMC) = 小林和雄・佐竹茂市郎・波多野進・柴香里・桑原一雅。

たちかわ市民交流大学=和田宏・橋崎善治郎・広瀬俊夫。立川市地域学習館運営協議会=伊藤暢子・中村克久・広瀬俊夫。立川国際友好協会=波多野進・小木曾夏樹。在宅ホスピスケアボランティアさん=中村克久・田村一葉。インターネットマガジン・知の木々舎=鈴木茂夫・横幕玲子。

京都社会保険労務士会多摩支部=大岩泰世・柴中会・諏訪神社子総代。志村順子=東京家庭裁判所立川支部調停員。木村辰幸=東

川市青少健栄町地区委員会=長野長正=東大和第六小学校運営協議会。長谷川英夫=悠友会。森山義弘=社会福祉法人恵比寿会。伊藤春会。小林章子=保護司・立川市男女平等参画推進審議会。佐竹茂市郎=立川おはやし保存会。柴香里=立川BBS会(非行に走った子供・問題を抱える子供の支援)

田中清勝=立川市議会議員。波多野進=砂川園ディサービス。相川弘=立川ガーデニングクラブ。他に色々活動のリードしよう。ぜひ私宛に(TEL・FAX 042-531-2687)『一報下さ』。

これらの活動の中から次ページに、それぞれの活動に携わっていられたより報告をいただきました。(S 39・文)

なぜ単に人気があるだけというタレントが当選するかというと、その所属政党の支持者が投票するからだ。

各党が出すマニフェストなるもの、先生にはクイズのように見えていた。それぞの項目は具体的で心地よいが、相互に矛盾するものがあつたりして、どういう国を目指しているのか当ててみると、いわれている気がするらしい。こういう国にしたいという理念がまずあって、それにはこうすると考えるのがマニフェストの順序ではないかと批判する。



# 慶應大学三醉会との合同企画も

同企画も

稻酔会は例会2度、青梅・五日市線の合同稻酔会（幹事昭島稻酔会）と都合3回の例会を実施致しました。

青梅・五日市線沿線の合同は年1回で計16回、立川稻酔会は合同を含めて48回となりました。

今年は新企画として慶應大学立川の三醉会11名、立川稻酔会18名（内女性5名）の合同の会を田村酒造で開催しました。酒造のご配慮で利き酒の催しがあり、入賞者は三醉会2名、稻酔会1名となりました。立川稻酔会の入賞者は紅一点の小林幹事長!! 普段はビー

## 早慶戦・早明戦を中心とした応援活動

大上 保（ラグビーを愛する会）

当会も発足8年目をむかえ、例年早慶戦（毎年11月23日（祝））早明戦（毎年12月第1日曜日）を中心  
に観戦を行っています。

◆早慶戦 平成23年11月23日(祝)  
(秩父宮ラグビー場) 早稲田が計  
9トライを挙げて快勝(54-24)

3季ぶりの早慶戦勝利を飾った試

合でした。参加者は、伊藤暢子、大上保、鶴海量良、小木曾夏樹、茶野宏、堤清、坪田知広と、子息長谷川英夫、富樫稔、原健一、東誠、江本正記の13名、試合終了後は渋谷「魚民」の懇親会で勝利の美酒を味わいました。

◆早明戦 平成23年12月4日(日)



今年のテーマは「里山を歩く」

長谷川 英夫（散策の会）

# 面白 そ う な カ ル チ ャ ー を 見 つ け て は

小林 章子（カルチャーを楽しむ会）

# 若い人も女性も、ぜひ参加を！

田村二葉（ゴルフ愛好会）

面白そうなカルチャーを見つけては

## カルチャーセミナー

幅広いカルチャーを楽しみながら人間性・知性を高めることを目指して「カルチャーを楽しむ会」(カルル楽会)が発足したのは1年前のこと。第1回はファーレ立川アートツアードした。ファーレには36カ国92人の芸術家の作品10

9点があるそうで、ボランティアアートガイドの案内に従つて2時間で見学できたのは、そのうちの約半数でした。

アートと言つても、車止めだつたり、換気塔や散水栓だつたり、街路灯やネオンだつたりと機能を

## 今年のテーマは

前半の活動は、全て「里山」というわけではありませんが、歩い



を見つけて楽しみたいと思います。  
(S 54・法)



40・文)・岩瀬英治(S41・理工)  
が担当します。



その日は、朝から冷たい雨が降りしきっていた。早稲田大学主催の駅伝大会があると聞き、わが駅伝同好会も参加することとしたものの、あいにくの天候で、皆来るのかと心配したが、メンバーが全員そろいはつとして競技場へ向かう。会場はすでに個人の部がはじまり、熱気で包まれていた。

駅伝の部は、応援部主導の校歌斉唱で始まり、白井前総長が号砲を鳴らす。わがチームの1区米田君がゲストランナーの東国原さんと並んで栄光のスタート。子育てに忙しくて練習不足だと言い訳していたけれど、

そば降る雨の中を元気に走る。競技場の中を半周して外周を取り、たすきを花の2区小林へつなぐ。足の故障を気にしながらも走り始めると我忘れ進む。雨も次第に小降りとなり、第3走

で明治に勝ち、対抗戦第2位となり次の全国大学ラグビー選手権大會に弾みのついた試合となりました。参加者は、稻本洋子、大上保、鶴海量良、桐岡隆澄、田中一三、



## 同好会連絡先

稻酔会	長野 長正	566-1033
散策の会	中村 克久	527-3559
ゴルフ愛好会	江藤 英彦	574-8835
駅伝同好会	小林 和雄	526-3245
ラグビーを愛する会	大上 保	536-0940
カラオケサークル	佐竹茂市郎	529-8921
カルチャーを楽しむ会	小林 章子	537-6149
麻雀同好会	小木曾 夏樹	523-5546
談話サロン	広瀬 俊夫	531-2687

た風景の中に、子供のころの、あるいは故郷の思い出が、自然と湧いてきて、お互いのそんな思い出を語り合いながら楽しく歩くことができました。

活動内容を簡単に紹介しますと

1月18日 青梅七福神巡り（かなり歩きました）

2月1日 上野（故宮博物館展）と谷中（夕焼けだんだんも歩きました）

3月7日 八王子・川越（会員の知人で名刹の住職にご案内いただきました）

4月4日 六道山公園と野山北公園（雜木林と谷戸、懐かしい里山の風景の中に、子供のころの、あるいは故郷の思い出が、自然と湧いてきて、お互いのそんな思い出を語り合いながら楽しく歩くことができました）

5月16日 国立劇場で文楽鑑賞（カル楽会と共に、事前勉強会もしました）

6月6日 東京ゲートブリッジと大健闘。帰りに、近くの食堂に立ち寄り、ビールで乾杯！ 悪いコンディションの中での大会でしたが、全員気持ちよく走れたこ

と、喜びを分かち合った。

（S 47・理工）

## 現代風に健康麻雀を楽しむ

小木曾 夏樹（麻雀同好会）

結果は、オーバー40の部で7位と大健闘。帰りに、近くの食堂に立ち寄り、ビールで乾杯！ 悪いコンディションの中での大会でしたが、全員気持ちよく走れたこ

と、喜びを分かち合った。

（S 47・理工）

一九五十年代後半、我等学生の最高の娯楽は麻雀、授業の往き帰りに必ず立ち寄ったのは大学周辺に軒を連ねていた「雀荘」であった。時には授業に出で仕舞いの日も…僅かな賭け金での勝ち負けがこの上もなくスリリングであり、その日の酒代やおかげにも影響した。

高度成長期に入つた一九七十年代になると麻雀は重要な社用・社交のツールとして、企業間や仲間との最高のコミュニケーションの場となつた。

現在の同好の士は9名。毎月一回（原則は第2水曜日の午後一時）五時）和気藹々と卓を開く。終了後は立川駅前の居酒屋で軽く一杯を

交わすのがまたの楽しみ。聞くところによれば、立川三田会にも同様の会があるとか？

我が稻門会も研鑽（？）を重ねその内に交流戦を挑もうかと仲間同士で話している。麻雀の腕に覚えのある同好の士よ。あなたの参加を大いに期待します。

（S 35・経済）



ら青梅梅郷（梅の盛りは未だでした）

4月4日 八王子城跡（ボランティアのガイドさんの説明が面白かった）

18日 六道山公園と野山北公園（雜木林と谷戸、懐かしい里山の風景の中に、子供のころの、あるいは故郷の思い出が、自然と湧いてきて、お互いのそんな思い出を語り合いながら楽しく歩くことができました）

活動内容を簡単に紹介しますと

1月18日 青梅七福神巡り（かなり歩きました）

2月1日 上野（故宮博物館展）と谷中（夕焼けだんだんも歩きました）

3月7日 八王子・川越（会員の知人で名刹の住職にご案内いただきました）

4月4日 六道山公園と野山北公園（雜木林と谷戸、懐かしい里山の風景の中に、子供のころの、あるいは故郷の思い出が、自然と湧いてきて、お互いのそんな思い出を語り合いながら楽しく歩くことができました）

5月16日 国立劇場で文楽鑑賞（カル楽会と共に、事前勉強会もしました）

6月6日 東京ゲートブリッジと大健闘。帰りに、近くの食堂に立ち寄り、ビールで乾杯！ 悪いコンディションの中での大会でしたが、全員気持ちよく走れたこと、喜びを分かち合った。

（S 47・理工）

## 現代風に健康麻雀を楽しむ

小木曾 夏樹（麻雀同好会）

結果は、オーバー40の部で7位と大健闘。帰りに、近くの食堂に立ち寄り、ビールで乾杯！ 悪いコンディションの中での大会でしたが、全員気持ちよく走れたこと、喜びを分かち合った。

（S 47・理工）

一九五十年代後半、我等学生の最高の娯楽は麻雀、授業の往き帰りに必ず立ち寄ったのは大学周辺に軒を連ねていた「雀荘」であった。時には授業に出で仕舞いの日も…僅かな賭け金での勝ち負けがこの上もなくスリリングであり、その日の酒代やおかげにも影響した。

高度成長期に入つた一九七十年代になると麻雀は重要な社用・社交のツールとして、企業間や仲間との最高のコミュニケーションの場となつた。

現在の同好の士は9名。毎月一回（原則は第2水曜日の午後一時）五時）和気藹々と卓を開く。終了後は立川駅前の居酒屋で軽く一杯を

交わすのがまたの楽しみ。聞くところによれば、立川三田会にも同様の会があるとか？

我が稻門会も研鑽（？）を重ねその内に交流戦を挑もうかと仲間同士で話している。麻雀の腕に覚えのある同好の士よ。あなたの参加を大いに期待します。

（S 35・経済）







**岩手県の被災地へ**  
第2回は、季節が移つて残暑厳しい8月29日～30日。岩手県への訪問だ。盛岡市の岩手日報社で、校友会岩手県支部長を務める三浦社長から震災当時の生々しいお話をうかがつた(写真④)。本社の電源が喪失する中、震災の翌日には他地域の輪転機を借りて4ペ

リで写真屋さん、腐った魚の処分に苦労した水産加工業の方、新築したばかりの家が流されその跡地で自ら命を絶つた社員をもつ社長さん、家も会社も流されながらも全国から図書を集め小学校に寄贈し本棚と管理システムも作成しました。うとする方・話を聞きながら、自分に何ができるのか思い悩んでいた。



◆立川駅のコンコースを歩くと、足早に歩く人たちであふれ、立川はいつのまにか賑やかな町になつたといつも思います。そんな中で立川稲門会も息づいています。まず会員のみなさんの時間と知恵を惜しまないご協力があります。そしてこの「立川稲門会会報」への名刺広告のご協力、伊藤勲様から行事ごとの2万円のご寄付、アサヒビール岡田正昭様、澤田賢一様よりの飲料の大量のご寄付、町田弘様からも稲門祭プログラムへの全面広告など、この1年も多くの方々から支えていただきました。

◆立川の誇りである昭和記念公園のコスモスも終わり、そろそろ錦糸にしないことになるのだと思う。

◆今年の会報も中村信広報委員長のご尽力によるものです。リハビリ中でもページ割に始まり、最後の仕上げまですべてしていただきました。「ご子息の大人の協力も毎年のことで感謝申し上げます。

いじの新聞を発行したそうだ。今必要なことは何かを重視た紙面構成が、被災者にとって大事な情報源になつたことが想像できる。次に向かつたのが宮古市で、特に津波の被害が大きかつた田老地区を、地元出身校友の元農水大臣玉澤徳一郎氏に案内していただいた。数度の津波被害から復興してきたこの地区を守る高さ10メートル、総延長2・5キロのX型巨大防潮堤を、平成の津波は乗り越え地区を破壊した。その爪痕を伸びた夏草が勞わりながら隠そうとしているかの様な風景だった。夜には陸中稲門会との交流会で、体験談をお聞きしながら東北の方々の暖かさと力強さに触ることができた。

2日目最初の訪問地は釜石市。暑さの中、ラグビー部OBの赤崎市議会議員が汗だくになりながらお話ししてくださった。姉と姑が車で逃げる途中渋滞に巻き込まれて犠牲になつたこと、社長である義兄が従業員を先に逃がして本人は亡くなつたこと、5人家族が1ヶ月間ばらばらに暮らしたこと

と力強さに触ることができた。この2度のツアーワークでは、旅行社救助されるテレビ映像は今も目に浮かぶ。その後全国から次々と医師が支援に訪れたが、短期間で帰つて行く。最近の報道で、この地に移り住み常勤で働きたいという

ツアーワークを終えてこの震災で多くの町が破壊され、多くの方が犠牲になつた。自分にできることは何か自問した人も多いだろう。この出来事を忘れないこと、語り継ぐこと、未来に活かすこと、それが多くの人の死を無駄にしないことになるのだと思う。バスガイドさんが別れ際「今度は観光で来てくださいね」と言つた。東北に人が訪れ、経済効果をもたらし、地域が賑わうことも復興の証。また必ず訪れようと決めた。募金箱を見たらお財布を開こうと思う。

この2度のツアーワークでは、旅行社のツアーワークでは経験できない多くのことを学ばせていただいた。参加して本当に良かつた。稲門会の新たな意義を見つけたような気がする。企画してくださった練馬稲門会の松本誠氏はじめ23区関係者の皆様に心から感謝したい。

（S 54・法）

広報委員会 鴛海量良・小林章子  
・志村順子・長野長正・中村信一  
原健一・米田典弘・和田宏（五十音順）

## 事務局便り

## 平成卒組・稻門会を語る



四季酒菜「さわ」にて

上野 本日は、若手座談会と言います。

相川 このお店は、何で知つてた

の？

上野 前に、田中先輩に連れて来

て貰つたのです。そうだ、先輩の

ボトル無いかな？（確認にいく）

相川 残念、無いみたいですね。

上野 君が、立川稻門会に入

つたきっかけは？

上野 僕は、不動産稻門会の先輩

に連れて来て貰つたのが、最初で

す。確かに平成20年の親桜会だった

かな？それで、酔つた勢いで、そ

の場で入会しました。（笑）

上野 森山さんは？

森山 僕は、父親（森山勇氏 S

37・政経）に、行けと言われてね。

それが最初かな？

相川 さん？

相川 僕は、立川第一中学のPTAの役員をしているときに、鈴木

勝哉（S 42・二法）さんに誘われたのが、きっかけです。うちの会

（某都市銀行）は、合併があつたりして、会社内に稻門会とか無

森山 やっぱり、それは入口のきっかけとして大事だけど、来てくれた人が続くかどうかは、こうやつて一緒にお酒を飲んだりしてね。今後の若手会に1人、2人と若い人が増えて行けば良いんじやない。

相川 本当にそうですね。これからも、こう言つた若手会を続けて行きましょう。

上野 本日は、両先輩、有難うございました。

◆座談会を終えて

三人で「稻門会」、「早稲田」などと言つたテーマで話をしていると、隣りの席のグループの方から、「なんだ、お前ら後輩じゃなあ！」と、声をかけられた。見知らぬ人たちとも、早稲田大

から、何か一つ位入つても良いかなと思つて。

相川 P.T.Aには、どう言う経緯で？

相川 もともと、十数年前長男の幼稚園で「親父の会」と言うのが、あつたのですが、それがすごく楽しかつたのです。もちろん参加者の歳も、仕事も違うのですが、同じ地域に住んで、子供と言う共通の話題があり、その時の人達とは、今でも続いていますよ。たまに飲みに行つたりして。それで、地域の活動ついていいなあと思つてね。

森山 とにかく、いろんな人がいる年齢、職種を問わずね。女性会員も多いし。

相川 仕事をして、思ふ所で会つたりして（笑）。

森山 本当にそうですね。あと、先輩達が、とにかく良く動いてくれます。会の行事しかり。若手に何かを押しつけると言うのが、全く無いのが有難いです。

上野 今度立川の若い校友に案内のはがきを出そうと思つていますが？

森山 やっぱり、それは入口のきっかけとして大事だけど、来てくれた人が続くかどうかは、こうやつて一緒にお酒を飲んだりしてね。今後の若手会に1人、2人と若い人が増えて行けば良いんじやない。

相川 本当にそうですね。これからも、こう言つた若手会を続けて行きましょう。

上野 本日は、両先輩、有難うございました。

◆座談会を終えて

三人で「稻門会」、「早稲田」などと言つたテーマで話をしていると、隣りの席のグループの方から、「なんだ、お前ら後輩じゃなあ！」と、声をかけられた。見知らぬ人たちとも、早稲田大

## 地域に根をおろした活動を

原 健一  
平23年度行事報告

も豊か、話題も弾んだ楽しい一時

だった。川端博美さんの令嬢、友紀子さんのピアノ伴奏で「上を向いて歩こう」を全員で合唱。川端

さん母子のピアノ連弾の組曲「日本の四季から「初秋から秋へ」」

も良かった。最後に木村辰幸さん

の音頭で校歌斎唱で意気を上げ、懐かしむ活動に満足するだけでなく、地域にしつかりと根をおろし

た役員たちの社会性だろうか。そ

んな立川稻門会の会員全體が集う行事を振り返つてみたい。

■38回定時総会 2011年10月29日（土）午後5時～午後8時30分

立川グランドホテルで開催。大

学や近隣の20稻門会からの来賓も

含めて112人が参加。会計報告

の中東日本大震災への義援金の報告。社会へ目を大きく開いてい

る事の証明。

◇講演会 講師は評論家・田原總一朗氏。一般市民にも開放、140人が参加。地域への溶け込みと

いう意味でも大成功だった。

◇懇親会 米田典弘・上野竜造さ

んの司会で進行。飲み物・食べ物

◆講演会 講師は評論家・田原總

一朗氏。一般市民にも開放、140人が参加。地域への溶け込みと

いう意味でも大成功だった。

◆懇親会 米田典弘・上野竜造さ

んの司会で進行。飲み物・食べ物

◆講演会 講師は評論家・田原總

一朗氏。一般市民にも開放、140人が参加。地域への溶け込みと

いう意味でも大成功だった。

◆講演会 講師は評論家・田原總

念ながら途中で打ち切つたが、不思議な幸せを感じたとの出席者の感想を仄聞した。来年の好天を期待したい。（筆者は欠席。）

■夕涼み会 8月4日（土）午後7時～午後9時 昭和記念公園ふれあい広場レストランで実施。広瀬俊夫・丸本和代さんの司会で開幕。志村会長の挨拶。古川剛久さんの音頭で乾杯、宴に入った。早稲田祭の紹介等があった。



念ながら途中で打ち切つたが、不思議な幸せを感じたとの出席者の感想を仄聞した。来年の好天を期待したい。（筆者は欠席。）

■夕涼み会 8月4日（土）午後7時～午後9時 昭和記念公園ふれあい広場レストランで実施。広瀬

俊夫・丸本和代さんの司会で開幕。志村会長の挨拶。古川剛久さんの音頭で乾杯、宴に入った。早稲田

祭の紹介等があった。

（S 34・政経）